

“感動”の電気電子工学科フォーラム 2003
(平成 15 年 10 月 18 日 (土) 19 日 (日))開催 (第 1 回)の報告書

報告者 電気電子工学科
フォーラム 2003 開催グループ
代表 学科長 大嶋 重利 (教授)
企画担当 富川 義朗 (教授)

1 まえがき

この度表記の“感動”の電気電子工学科フォーラム 2003 を工学部 7号館並びに中示 C 講義室で実施した。本文ではその概要を報告する。これに関して、外部から参加いただいた講師、OB のパネリスト並びに企業の方々にはご多忙の中、多大のご支援をいただいた。ここに厚く御礼申し上げます。また、社団法人・米沢工業会並びに米沢市学園都市推進協議会から資金援助をいただいた。以下報告の前に記し厚く感謝申し上げます。

2 フォーラム 2003 開催 (第一回) の目的と経過

本フォーラム 2003 (第一回) の目的は学科長大嶋重利 (教授) が フォーラム 2003 の開催に向けて - と題して述べている一文に集約される。すなわち、「21世紀の“電気電子工学科”の使命と役割は、実社会に役立つエンジニアの養成、高度な科学・技術の探求と伝承、的確な情報の発信である。その使命と役割を多くの学生、OB、地域社会の方々にとって貰うために今回の企画を致しました。我々が何を指し、何を求めているかを理解して頂くために“感動”の電気電子工学科の最新の状況を公開します。多くの方々の参加をお願いいたします。」がその目的であります。このような企画は学科内では 15年度予算を申請する前年度の 2月の段階で考えられていました。平成 16年度からは国立大学が“独立行政法人化”が確定し、“売り”の電気電子工学科”を実践しなければならないことを考慮しての事であります。一方、当工学部では秋の学園祭 (吾妻祭) が恒例となっております。その企画の一つとして学園祭実行委員会から研究室公開の要請がありました。電気電子工学科ではこれに学科全体で参加することを決めましたが、単なる参加だけではなく開催を検討していた上記のフォーラム 2003 とこれに呼応して行うことに意を決しました。すなわち、

- (1) 学生の就職をより進展するための“売り”ばかりでなく
- (2) 各教官、グループの研究成果・活動を認知いただき産学連携をより強く実施するための“売り”であります。
- (3) またこれらの内容を通じ勉学する学生自身への“売り”を明確化するものであります。

(4) 受験生に対しては当電気電子工学科が魅力ある学科であることを知っていただき、受験・入学の希望をより一層喚起いただく“売り”でもあります。

3 具体的な実施項目

フォーラム講演会

日時：平成 15 年 10 月 18 日 (土) 9:30 ~ 12:00

場所：講義棟 2 階中示 C 教室。

パネル討論会

日時：平成 15 年 10 月 18 日 (土) 14:00 ~ 16:00

場所：講義棟 2 階中示 C 教室。

“売り”の電気電子工学科”のための研究室紹介

日時：平成 15 年 10 月 19 日 (日) 9:30 ~ 16:00

場所：7 号館 4 階 404 室・学生実験室。

産学連携展示会並びに研究開発交流会

日時：平成 15 年 10 月 19 日 (日) 9:30 ~ 16:00

場所：7 号館 3 階 320 室、325 室。

懇談会

日時：平成 15 年 10 月 19 日 (日) 16:15 ~ 17:30

場所：7 号館 2 階 214 室。

4 実施項目の内容

フォーラム講演会 (10 月 18 日 (土) 9:30 ~ 12:00)

テーマ：ユビキタス社会の電気電子工学

参加者：主に電気電子工学科の学部生、院生並びに教職員、およそ 100 人。

1. “感動”の電気電子工学科の戦略 - 独立行政法人化に臨んで - 」

講演者 学科長 大嶋 重利 (教授)

講演内容：1) 開催の趣旨・目的、2) 電気電子工学科の学習・教育目標、3) 電気電子工学科の概況 - 特にその“売り”としての研究内容 -、4) 未来志向とする学科の決意と学生や地域社会、産業界との連携強化の指針。

実施の様子 添付写真 1、2 の通り

2. 企業経営と人材戦略 - 採用側から見た学生の就職戦略 - 」

講演者：(株) ティ・アイ・ティ 人材開発部長 鈴木幹雄氏

講演内容：1) 志望動機の明述、2) 面接時での適切な反応

と自己表現 - 特に語尾の明確な表現 -、3)成績だけで採用や成功は決まらない、「感動」や「情熱」の必要性、4)更に、「基礎学力」の充実が採用や将来にわたっての成功の秘訣、5)学生に送る言葉、「本気」(添付資料省略)。
実施の様子：添付写真3の通り



写真1：講演会



写真2 講演会



写真3：講演会

パネル討論会 (10月18日(土) 14:00~16:00)

テーマ：「夢を持って生きているか - 電気電子工学に関する思い -」

パネリスト:吉澤 健一君 (学部4年生、持ち時間15分)

白川 政信君 (修士2年生、持ち時間15分)

佐藤 健二郎氏 (OB, NTT ドコモ東北 取締役、持ち時間25分)

(5分休憩)

河口 仁司氏 (教授、持ち時間25分)

向田 昌志氏 (助教授、持ち地時間25分)

司会 富川 義朗 (教授)

形式：各自持ち時間内での夢の講演と質疑応答。

内容：1)吉澤 健一君：日産自動車受験の動機とその成功の様子の紹介。電気電子工学の知識を生かしての電気自動車開発の「夢」。

2)白川 政信君：入社試験を将来について考える好機と捉えた。物造りに関する希望を確認し、東芝を受験、成功したことの紹介。「夢」としての半導体やコンピュータの小型化の意識。

3)佐藤 健二郎氏：「夢」とは何か = 「好きなこと」と捉えたい。「何になりたいか、何をしたいか、何がほしいかも夢である。NTT ドコモ東北の仕事(添付資料省略)を通しての「夢」の紹介。

4)河口 仁司教授：20世紀の科学技術での「夢」の実現について。「光を止める - 光パツハーマモリ」など新しい「夢」の紹介。

5)向田 昌志助教授：なぜ勉強するのか。大学時代は「夢」を探す時。「夢」のプロセスの分析。

【同会者のコメント】：「夢」の意味も内容も多様である。人生のそれぞれの時点での「夢」があり、それが重要である。

参加者：学生並びに教職員 30名程度。

実施の様子：添付写真4の通り

「売り」の電気電子工学科」のための研究室紹介

(10月19日(日) 9:30~16:00)

内容：1)各研究室・グループの研究成果の展示

2)何をしているかの説明のためのパネル展示

実施の様子：添付写真5の通り

産学連携展示会並びに研究開発交流会

(10月19日(日) 9:30~16:00) 参加企業:全15社

1) NEC パーソナルプロダクト(株)

2) (株)タカハタ電子

3) ムキ精機 (株)

4) 中央電子 (株)

5) 東北パイオニア (株)

6) (株)片桐製作所

7) アルバックテクノ (株)

8) 東北電力 (株)

9) 三菱重工業 (株)

10) (株)山王テック

11) (株)オリパス

12) 東洋通信機 (株)

13) (株)サタス

14) マイクロストーン (株)

15) 米沢放電工業 (株)

内容：企業開発技術の展示、パンフレットの提示。学生
求人資料の展示配布。実施の様子 添付写真6の通り



写真4 パネル討論会



写真5 研究室紹介

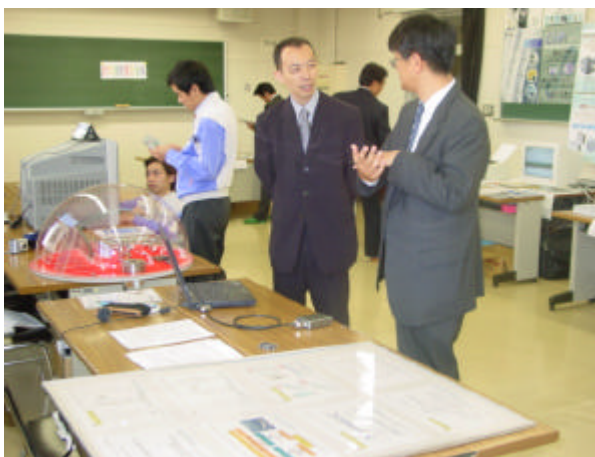


写真6 産学交流会

懇談会 (10月19日(日)) 16:15 ~ 17:30

5 むすび

以上、この度のフォーラム2003の企画と実施内容の様子を報告した。以下、開催に当たっての問題点や反省点をまとめ、むすび、とする。

1) 開催前の学科内の討議において、このような企画は必要か相当議論された。すなわち、この多忙な大学において、開催してもあまり効果的とは思われない、フォーラム2003に精力を割く必要はないのではないか、教育と研究に集中した方が良いのではないかと...と言うものである。これに対する回答はこの企画が成功であったかどうかの評価にかかってきますが、主催者側からは、ある程度の目的は達せられたとの思いである。しかし、肝心の2~4年の学生の参加は少なかったようで、残念な思いであります。このため、自己採点ではせいぜい60点であったかと思われる。

2) 反省点は、もう少し早く動く必要があったと痛感します。時間的余裕があれば、市や県へのPRが更に行え得たと言ふ事が分かったからである。

3) 同時に開催された吾妻祭の方には沢山の学生が参加していた様子を見ると、同時開催しない方が良いのか、今後検討が必要である。

4) 学部3年生には就職戦線への対応のための講演、研究室配属のための参考資料としての研究室公開も強く意図したが、学生には理解されなかった様で、真に心残りであります。

5) 研究成果公開・展示も教官の思いや意識が一致しなかったせい、少し貧弱であったと思われる。単なる研究内容のパネルでの紹介だけでは「売りの電気電子工学科」にはほど遠い思いであります。やはり「工学」であるので、「物」の展示・紹介を行いたいものである。大きさなどの点で会場に持ち込め無い場合もある事は理解できるが、出来るだけ「自分達の技術を学生にも社会にも「売る」と言う意識があって欲しいと感じられた。

6) もし次回開催があるとすれば、会場の選択には意を用いる必要がある。5)の実現を考慮しながら検討したい。

7) 企画が盛り沢山過ぎたとの反省もある。研究技術だけの「売り」に徹するの一案と思われる(尤も、それだけのレベルの展示が必要であるが)、学生の「売り」は別企画で行っても良いと思われた。また、「夢」に対する企画は教官の在学学生への日頃の「売り」の行為として学内講演会を通して行っても良いものであると思われる。問題点や反省点ばかり述べましたが、初めての企画であり、暗中模索で行った事をお許し戴き、次回に期待いただきたい思いであります。尚、このような企画は工学部全体で実施されるべきものとの想いも強い。当方が参考にした電気通信大学の企画・実施の盛大さとその効果を思う時、工学部全体での開催を強く願う者である。